

積雪期における 震災対応訓練を実施しました

新庄河川事務所では、積雪期に発生した東日本大震災を教訓に、積雪の一番多いこの時期に防災訓練を実施しました。本訓練では、積雪による点検が難しい状況を想定し、河川・砂防施設及び河道状況の迅速かつ効率的な把握手法としてCCTVカメラ、ラジコンヘリコプターを活用した緊急現地点検やスノーモービル、スノーシュー等を利用したより実践的な訓練を行いました。

この訓練を検証し、積雪期の震災と融雪に対する出水に万全を期します。



スノーシュー

▲スノーシューによる点検



▲排水樋管点検

CCTVカメラとは...

常時監視システム内の一つの監視方法で、「Close Circuit Television」の略称、空間監視カメラの事です。

CCTVカメラは、ズームアップ機能やライトを備えており、遠隔操作をすることで河川施設の状況把握や緊急時の点検等に役立っています。



CCTVカメラ



▲室内において室内においてCCTVによる点検

— 平成24年度 工事状況 —

最上川中流鳥越管内維持工事(株)カキザキ

～法面補修作業～

概要

堤防の老朽化や近隣の雑草に浸食され、芝の生育が悪い箇所の芝張り替えを行いました。
 芝は洪水時の堤防の土砂流出や破堤、表面の風化を防ぐために重要な役割を果たしており、良好な生育を保つことが重要となっています。



▲ 質の低下した土砂を剥ぎ取り、土砂の定着を良くするため階段状に整形し、良質な土砂の安定を図ります。



～根固め作業～

概要

経年の河床洗堀により、護岸の保護矢板が露出し危険なため、袋詰め根固により露出部の保護を行いました。
 袋詰め根固の中詰め材には、近隣工事の皿島築堤工事で発生したコンクリートブロックを再利用し、コスト縮減を図っています。



▲ 低水護岸法留め洗掘箇所の状況



* 3出張所合同安全パトロール * 3月8日



▲ 最上川中流亀井田橋下部工工事



▲ 最上川中流皿島出船下流地区特殊堤工事

大石田出張所、鮭川出張所と合同で安全管理の向上のため、大石田出張所担当「最上川中流亀井田橋下部工工事」、鳥越出張所担当「最上川中流皿島出船下流地区特殊堤工事」現場の安全パトロールを行いました。
 各現場を合同でパトロールすることで、より安全な施工を目指します。

水閘門操作員講習会



3月1日(金)

新庄市「最上広域交流センターゆめりあ」におきまして、水閘門操作員講習会を行いました。

水閘門操作員講習会は排水樋管等の操作を委嘱している操作員を対象に年1回、管内の出水状況や排水樋管ゲート操作・点検等について講習を行うものです。

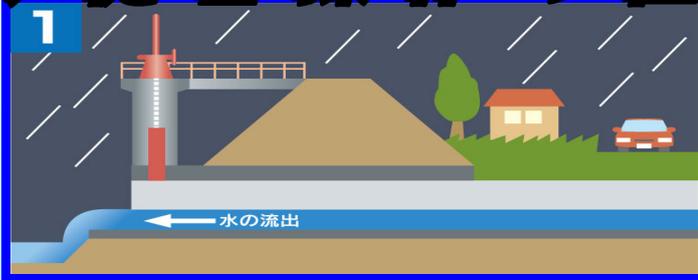
排水樋管は、生活排水や雨水を堤防の中を通して河川に流すために堤防に設置されている施設です。

携帯電話を使った

樋管情報管理システムの操作・登録演習

排水樋管

◆樋管操作の仕組み◆



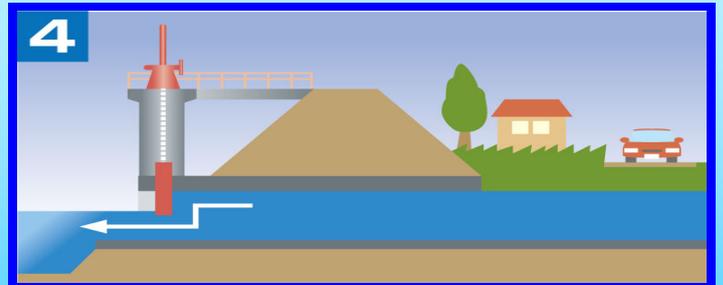
▲ 平常時や川の水位が低い時には、排水樋管の扉は開いており、生活排水や雨水を川に流しています。



▲ 洪水により川の水位が高くなると、川の水が樋管を通して住宅側に流れ込み(逆流)、浸水被害が発生するため、樋管の扉を閉めます。



▲ 樋管の扉を閉めると、住宅側の水の行き場所がなくなり、住宅地が浸水する(内水被害)場合があります。そのため、内水被害が発生する場合には排水機場を設置したり、排水ポンプ車で排水するなどの対策を講じています。



▲ 川の水位が低くなり、住宅側への逆流の心配がなくなったら、樋管の扉を開け、住宅側に貯まった水を川に流します。

水閘門操作員とは…

洪水により必要となる樋管の操作(扉の開閉)は水閘門操作員として地元の方に委嘱しています。

水閘門操作員は、川の水位が上昇し逆流の恐れが生じた場合に担当樋管に出動し、逆流が始まったら樋管を閉めます。水閘門操作員はその後も現地にとどまり、定期的に水位を観測し、逆流の心配がなくなった時点で扉を開け、操作が終了します。

樋管操作は昼夜を問わず、長時間にわたる大変な仕事であり、地域の人達の安全と財産は、水閘門操作員によって守られています。

鳥越出張所では、管内の30樋管の操作を60人の水閘門操作員に委嘱しています。

水閘門操作員



出張所長退官の挨拶



新庄河川事務所
鳥越出張所長
佐藤 重也

平成22年4月より鳥越出張所長として着任し3年間にわたり河川行政に携わって参りましたがこの度3月31日付けをもちまして退官することになりました。

最上川・最上小国川流域における河川事業に携わり、戸沢村、大蔵村、新庄市、舟形町役場の関係者の皆様をはじめ沿線地元地域の皆様のご理解とご協力のもと事業が円滑に進んでいることに対し、心から深く感謝申し上げます。

昭和47年入省以来長く道路行政の仕事をして参りましたが最後の勤務地が希望でもありました新庄河川事務所で河川行政の業務に係わることになったのも何かの縁と思っております。

鳥越出張所での勤務の3年間を振り返ってみますと平成23年3月11日に発生しました東日本大震災があります。幸いのことに出張所管内の河川施設には特段の被害もなく安堵しました。また、昨年4月10日に大蔵村肘折地区での地滑りが発生し、銅山川の河道閉塞があり肘折温泉街の浸水も危惧されましたが山形県・当事務所あげての対応により人的な被害もなく新たな橋もでき、昨年12月末に温泉へのアクセス道路が開通しました。

最後になりますが最上川・最上小国川流域の安全と安心が増進されます事へのご祈念と最上地方の豊かな自然と人情にあふれた地域の今後ますますのご繁栄をお祈りしまして退官の挨拶とさせていただきます。



▲ インターンシップ
就業体験学習



▲ 東日本大震災時に
災害対策現地情報連絡員
として女川町に派遣
◀ 最上川200キロ歩くに
おいて現場説明

☆お問い合わせ先☆ 鳥越出張所

〒996-0002 新庄市金沢字中村 1495-13

(TEL) 0233-22-6038

(FAX) 0233-22-0083

<http://www.thr.mlit.go.jp/shinijyou>

※ご感想や、河川に関するご意見や情報等
ありましたらお気軽にお寄せ下さい(^o^)
担当 遠藤・金田